

令和5年度中予地方局予算事業成果表

1 基本事項

- (1) 事業名 障がい児創作体験モデル事業費
- (2) 事業期間 令和3年度～令和5年度
- (3) 所 管 健康福祉環境部地域福祉課
- (4) 予算額 992千円

2 事業目的

新型コロナウイルスの影響により、モノやヒトと触れ合う機会が減少しており、障がい児と家族が安心して暮らせる共生社会づくりの取り組みが必要である。

そこで、管内の施設の障がい児を対象に、中予地域ならではの伝統的特産品である砥部焼などの創作活動を体験してもらい、製作した作品の展示など情報発信を行うことで、障がい児の「生きがい」創出を図る。

3 主な取組（何をしたか）

(1) ろくろ・たたら創作体験等の実施

障がい福祉施設に入所・通所する障がい児を対象に、砥部焼のろくろや絵付け体験等を実施した。

- ・開催日 ろくろ・たたら体験：令和5年8月8日
絵付け・釉薬掛け体験：令和5年8月29日
- ・参加者 計24名（4施設）



【ろくろ体験】

(2) 作品展示及び体験動画配信等の実施

障がい児が創作体験により製作した作品を、中予地方局内等で展示し、体験動画などをSNS等により県内外へ情報発信した。

《作品展示》

- ・展示作品 創作体験により作成した砥部焼（計40作品）
- ・展示場所 中予地方局、松山大学樋又キャンパス、伊予銀行森松支店等 計5か所



【作品展示】

《体験動画》

- ・第1章：たたら・ろくろ体験編
- ・第2章：絵付け・釉薬掛け体験編
- ・最終章：作品展示編
- ・総集編：製作から展示

4 成果（何がどう変わったか）

障がい児創作体験へ参加した児童、保護者、施設責任者等へのアンケート調査では、全員が「同様の創作体験に参加させたい」と回答し、生きがい創出を図る上で重要である関係者全員が満足感を得ることができた。

また、創作体験から作品展示までの動画を作成し、SNS等により県内外へ情報発信し、当該創作体験への関心及び知名度を高めることができた。

さらに昨年度から引き続き、大学との連携により松山大学の学生が主体的に事業にかかわり、学生目線で砥部焼の現状等を取材し、動画作成等により、大学（学生）と社会の連携を図ることができた。

今後は、福祉施設と陶芸館が中心となって実施していく。